

3月5日日本子ども宣教局伝道学校（子ども）

5月学院福音化

シム・ジュウファン師

先月に続き今月の学院福音化のメッセージも使徒の働きのみことばです。先月は、3章から6章までのみことばでした。今月は、13章、そして少し飛んで、16章から19章までです。聖書を喜んで黙想して読んでいる方々なら、使徒働きも何度も読んでいます。しかし、一度も最初から最後まで読んでみたことがない方なら、今、タラップンで聞くメッセージを通して知っている内容がすべてだと思えるかもしれません。そこで、みなさんをお願いしたいのは、聖書をあちこち部分的にだけ見るのではなく、全体の流れの中でそれぞれの内容を見てくださいます。使徒の働きも同じです。使徒の働きの全体の流れの中で、それぞれの章を見てください。何年前にも学院福音化のメッセージで、使徒の働きがあったのですが、今日は少し簡単に整理してみます。

<使徒の働き全体の流れ>

1章8節で、イエスが天に昇られる前に弟子たちに語られたみことばがあります。聖霊を待ちなさい。すると力を受けて証人となるというみことばです。

2章で、五旬節の日にマルコの屋上の部屋でそのみことばが成就します。五旬節の日に聖霊が臨みます。そこで、使徒2章では、一時的に完成された神の国の模型としての教会の姿を見せてくださっているのです。2章にあった答えと働きが、今、この地の地上の教会が必ず受けなければならない答えならば、今も全世界のあちこちで同じ答えが続いて起こっていなければなりません。もちろん、一時的に少しだけ答えがある所はあります。しかし、それが繰り返して繰り返して起こっていない理由は何でしょうか。聖霊が臨むことによって完成された神の国、教会というのはこういうものだということを、しばらくだけ私たちに分かるように見せてくださったのです。たとえば、2章の最後、43節以降にあるみことばを見るなら、いっしょに一切の物を共有し、財産と所有物を売って、それぞれの必要に応じて、皆に分配していました。そして貧しい人が一人もいませんでした。それなら、それが引き続き起こらなければならない答えならば、今日の教会がそのようなことを継続しなければなりません。教会の中では、食事ができない人がいないように。お金がなくて学校に通えないこともなくて、借金を返さなくて命を絶とうと考える人もいないはず。皆さん、所有物をみな売って、皆が平等になるように、みな分配しなければなりません。そのような所は、天国、神の国しかありません。

続いて3章から7章までは、エルサレム中心に福音が宣べ伝えられることが起こります。

8章では、ユダヤ全体にだんだん広がり、そして、サマリアにまで福音が宣べ伝えられます。

9章では、神様が選ばれた器であるパウロが回心します。

10章では、神様を敬う異邦人コリネリウスが登場します。そして、異邦人にまで聖霊が臨むようになりました。

11章では、ステパノのことによって散らされた者たちがアンティオキアまで行って、本格的な異邦人宣教の前哨基地が建てられます。

12章では、ヤコブの殉教があります。使徒の中で最初の殉教者でした。そしてペテロの投獄と脱出。寝ているペテロを起こして御使いが外に連れ出しました。ヘロデの死があります。

13章以降最後の章までは、パウロの第1、2、3次伝道旅行を通じた地の果てまでの宣教が進行されます。

それは今も続いています。

結局、使徒1章でイエス様が語られたそのみことばの成就を現わしているのが、この使徒の働き全体の流れです。

今日の3月学院福音化のタイトルを「聖霊の働き」としました。

使徒13章2節から4節を読みましょう。

- 2 彼らが主を礼拝し、断食していると、聖霊が「さあ、わたしのためにバルナバとサウロを聖別して、わたしが召した働きに就かせなさい」と言われた。
- 3 そこで彼らは断食して祈り、二人の上に手を置いてから送り出した。
- 4 二人は聖霊によって送り出され、セレウキアに下り、そこからキプロスに向けて船出し、

使徒の働き（使徒行伝）の、もう一つの別名は、「聖霊の働き（聖霊行伝）」です。聖霊はだれでしょうか。神様でしょうか。聖霊の神様が、使徒たちを通して働かれ、教会を建てられ、また、福音を証ししておられるのを記録したのが、この聖霊行伝です。もう一度言います。使徒の働きの主人公は、人ではなく聖霊なる神様です。人の行いや、彼らが発揮した信仰や、決断、忍耐などが主題になってはいけません。ほかの聖書も同じです。ですから、レムナント7人を見るときにも、彼らが何をしたのかではなく、神様がその時代ごとに神様が準備された者を通して、どのように救いの働きを成し遂げて行かれたのかに焦点を合わせなければなりません。そして、メシア、キリストの契約がどのように成就して行ったのかを見るべきです。聖書の中の人物を見習おうとするなら、この聖書は単なる偉人伝に過ぎなくなります。イエス様だけが、確かな証人です。そして、従順の見本を見せてくださった方も、イエス・キリストしかおられません。聖霊に捕らえられて、福音を宣べ伝える生き方の中で受ける、さまよい、道がふさがれること、迫害、葛藤、危機の中で、イエス様が先に歩まれた「自分を否定すること、十字架の道を歩まれた生き方」をしなければなりません。それゆえ、イエス様が「確かな証人」、模範を示された者、「苦しみにによって従順を学ばれた」のです。

ヨハネの黙示録 1章 5節

“また、確かな証人、死者の中から最初に生まれた方、地の王たちの支配者であるイエス・キリストから、恵みと平安があなたがたにあるように。私たちが愛し、その血によって私たちを罪から解放し、”

ヘブル人への手紙 5章 8～9節

“キリストは御子であられるのに、お受けになった様々な苦しみにによって従順を学び、完全な者とされ、ご自分に従うすべての人にとって永遠の救いの源となり、”

イエス様が先に苦難と患難、迫害にあわれました。世から憎まれ、敵として扱われました。王の王であり、創造主であるその方は、力で世の中をすべてみなひっくり返すこともできたにもかかわらず、そのようにされませんでした。十字架の前でも、いくらでもその十字架を引き抜いて、ローマの兵士と祭司長、ユダヤ

人をみな殺すこともできました。しかし、そのようにされませんでした。父なる神様のみこころのために十字架にかかられました。

みなさんは、すべてイエス様を信じている人でしょう。イエス・キリストとウィズ、インマヌエル、ワンネスになった者でしょう。イエス様に習って、世界福音化する弟子たちです。それなのに、なぜ、イエス様が語られるみことばに耳を傾けないのでしょうか。なぜイエス様の実際の生き方には関心がなく、その方の生き方を見習おうとしないのでしょうか

ルカの福音書 9章 23節

“イエスは皆に言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。」”

「日々」と言われています。日々自分の十字架を負って死になさいと言われているのです。イエス様より先に行こうとする私を殺しなさいということです。聖霊の導きと働きより、私の意志を前面に出そうとすることを殺しなさいということです。

ヨハネ 20章 21節には

“イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わされたように、わたしもあなたがたを遣わします。」”

「父がわたしを遣わされたように、わたしもあなたがたを遣わします。」何をしなさいと遣わされたのでしょうか。「十字架を負いなさい。身代わりの羊として死になさい」ということです。そのように、イエス様も私たちが世の中に遣わすと言われたのです。

マタイ 10章 16節

“いいですか。わたしは狼の中に羊を送り出すようにして、あなたがたを遣わします。ですから、蛇のように賢く、鳩のように素直でありなさい。”

私たちが遣わされるのは、「狼の中に羊を送り出すように」だと言われます。祈り、学業、伝道300%の専門性を備えれば狼に勝つことができるでしょうか。私たちも同じように狼に捕えられて食べられなさいと送られるということです。

黙示録11章に見ると、すべての信徒の代表になる二人の証人が出て来ます。その人々はこの世に殺されます。そして道に捨てられるのですが、その死体を見て多くの人があざ笑います。しかし、時になって、神様が彼らを再び起こして、そのあざ笑った者たちを滅ぼされるのです。そのようにイエス様の生き方と同じ生き方をした人々が使徒たちでした。そして、ヘブル 11章の人々でした。

きょう がくいんふくいんか つた ほんとう わたし かみさま まえ しんじつ わたし てんけん じかん も
今日は学院福音化のみことばを伝えるより、本当に私たちが神様の前に真実に私を点検する時間を持つと
という心で申し上げました。

わたし はたら ひと せんせい しゅだい こんかい はなし
私が働き人へのメッセージをされるパウ・ジョンヒョク先生と、「このような主題で今回はこのように話
をしましょう」と相談したことは一度もありません。もちろん、学院福音化のテキストは同じように見ます
が、みことばを準備するときは、それぞれが聖霊の導きによって準備をしています。しかし、いつも、神様
がいつも心を一つにしてくださいと感じます。

さいご いちど ねが かみさま ふくいん ひと ふくいん へんしつ ねが かみさま
最後に、もう一度、お願いをします。神様の福音を、人の福音に変質させないように願います。また、神様
の福音と人の福音を分別する知恵があることをお祈りします。ローマ1章には、パウロが、「キリスト・イ
エスのしもべ、神の福音のために選び出され、使徒として召されたパウロから」と言います。なぜ、「福音」
と言うときに「神の」ということばをつけたのでしょうか。第一コリント、第二コリント、ガラテヤ人への
手紙に書いてあるように「人の福音」がとてたくさん教会の中に入ってきたからです。神様の福音のため
に選ばれた私たちとなることを祈ります。

こんげつ がくいんふくいんか し と はたら しょう しょう せいしょ きろく ないよう
今月の学院福音化のみことばは、使徒の働き13章から19章までです。聖書に記録された内容をレムナン
トといっしょに、そのままゆっくり読み続けながら、その中に入っている神様のなさった働きをともに分か
ち合ってフォーラムしてください。使徒の働き(使徒行伝)は「聖霊の働き(聖霊行伝)」です。

いじょう
以上です。